

## 野洲市大篠原地域環境保全対策委員会 平成 29 年度第 2 回会議 会議結果

1. 開催日時 平成 30 年 1 月 19 日 (金) 14 時 00 分 ~ 15 時 40 分
2. 開催場所 野洲クリーンセンター 2 階 研修室
3. 出席委員 市川委員長、岸本副委員長、山田委員、南委員、網野委員、飯田委員 以上 6 名
4. オブザーバー 滋賀県南部環境事務所 海東所長
5. 事務局 遠藤環境経済部長 他 7 名
6. 傍聴者 なし

### 7. 会議結果 意見、質疑等 (・各委員 市事務局)

#### 議事(1) 地域内の環境負荷施設の取り組みについて

大篠原地域に所在する環境負荷施設の取り組みについて、クリーンセンター、環境課より説明し、その内容について委員会として助言・指導があった。

- ・排出ガス測定悪臭の臭気指数について数値上どうなのか。  
臭気指数は臭気濃度の常用対数値を 10 倍したもので、数値上は法規制値に対して測定値は 2 の 1 であるが、臭気濃度としては 1,000 分の 1 になる。
- ・排ガス測定の悪臭と周辺環境測定の悪臭はどう違うのか。  
煙突排ガスでは臭気指数で法規制されており、周辺環境敷地境界は臭気指数による野洲市の基準となる。また悪臭 22 物質濃度については県条例を準用している。
- ・臭気指数は、物質全体で匂うか匂わないかで、何倍まで薄めれば匂わなくなるかという指標である。
- ・事業所 A の排ガス中ダイオキシン類調査で、平成 21 年度と 27 年度において事業所と県の測定値に大きな差があるのは何故か。
- ・ダイオキシン類測定は、サンプリング条件及び分析に難しい面がある。特に低い数値の場合は、バラツキが出るのは仕方がない。  
事業所と県が同時に測定したデータではなく、別々の時期に測定した結果であり、また燃やす物や燃焼の状態によっても変わってくる。

#### 議事(2) 周辺河川等環境モニタリング調査結果(底質・水質ダイオキシン類)について

#### 議事(3) 生活環境影響調査事後調査結果について

周辺河川水質・底質ダイオキシン類は環境基準値、自主監視値とも下回り、生活環境影響調査事後調査は、通年調査をとりまとめ環境保全目標を達成したことを報告した。

- ・調査結果一覧表の底質の数値で、平成 28 年度から 29 年度はかなり数値が上がっているが、これは誤差の範囲といえるのか。  
特に異常な数値ではなく、変動の範囲内と考えている。

#### 議事(4) 旧クリーンセンター解体工事の進捗について

建屋解体後の構造物下土壌調査結果は重金属・ダイオキシン類とも基準値を下回り、周辺法面土壌は全て除去した後にダイオキシン類を調査したところ、調査指標値以下の低い値であったことを報告した。

- ・構造物下土壌調査で灰バンカのダイオキシン類が他と比較して高いが、どのような原因か。  
操業当初、付近は灰出しのバンカと洗車場に接する裸地であった。後に粗大ごみ施設操車場としてコンクリート敷設したため、その下部に灰出しの影響が残ったものと推定される。
- ・以前に砂防沈砂池で高い数値が検出されたのは、これが流出したとも考えられないか。  
操車場を設置する昭和 62 年まで、そういう経緯があった可能性はないとはいえない。
- ・法面の土壌除去は、何センチくらい除去したのか。  
最大で 25 センチ、平均で 20 センチ程度除去した。
- ・法面に蓄積したということは、灰が直接落ちていたということなのか。  
操業初期は間欠運転しており、立上げ時に煤状のものが直近の法面に落ちた可能性が高い。
- ・その間流出していないということは、一度土壌に付着したら、そのまま蓄積されていたのか。  
ダイオキシンは水に溶けないので、土壌が流れてないなら、法面からの流出はない。

- ・今後の土壌調査は、土壌表面の測定だけでいいということか。  
サンプリングは、表面から5センチが一般的である。

議事(5)平成30年度大篠原地域環境モニタリング調査計画案について  
意見なし

その他

意見、質疑等

- ・今回、ばいじん処理物の問題が取り上げられていないのは何故か。  
ばいじん処理物の水銀が依然として変化し、安定していない状況である。対策については、技術的に確実な方法を提案する段階まで及んでないため、今回は見送った。
- ・ばいじん処理の対策については、現状を報告すべきではないか。  
現在、キレート10%を基本に添加、混練して大阪湾に搬出している。溶出値管理は、規制値0.005mg/lに対して、管理目標値0.0015 mg/lを下回る時もあるが、測定下限値になることはない。原灰中の水銀含有量が低い時は、キレート過多によってpH12以上と高くなり、水銀が再溶出する可能性が出てくる。今後安定して0.0015mg/lに近づけるため対策したいと考えている。
- ・委員会の存在は、何か大きな問題が起こった時などにフォローすることであるから、常時意見を聞くという姿勢が大事ではないか。
- ・センターは安定した状態で稼働しているものと思っており、そういった不安定な状態であるとは思わなかった。  
安定稼働に向けての対策の方向性について、現段階ではメーカーにおいて消石灰と活性炭の混合物に水酸化アルミニウムを加えた混合薬剤を吹き込んだ後、キレート剤を数%適量加える方法で検討している。試験によるとpH12以上あったものがpH10程度に下げられた。水酸化アルミニウムは、pHを調整できる機能と水和物として重金属を取り込む機能を持つとの報告を受けた。これは実験室での結果であり、当施設での実施については、技術的な確証が得られていないため、メーカーに早急な対応を依頼している。
- ・ごみ中の水銀はシャットアウトできないのか。  
現在、水銀を含んだ蛍光灯等の回収を市役所、図書館、北部合同庁舎の3箇所に加え、各コミセンでも行うため、コミセンに設置する回収ボックスの予算を来年度に要求している。水銀に対して一定期間、キャンペーン的な回収強化を図り、水銀の危険性、クリーンセンターへの影響等を市民に周知、啓発していくことで、集中的に回収していきたい。

以上